

通し番号	4853
------	------

分類番号	28-9C-31-02
------	-------------

(成果情報名) 神奈川県海域におけるカタクチイワシ1 - 2月期漁獲量の急増
[要約] カタクチイワシ太平洋系群の資源量が減少傾向にある中、1 - 2月期の本県沿岸での漁獲量が2009年以降急増している要因を検証した。その結果、北部太平洋大中小型まき網漁業が2006年以降カタクチイワシへの漁獲圧を激減させたことにより、沖合回遊群(産卵準備群)由来である大型成魚の来遊量がピ - ク期よりも相対的に増加し、漁獲増をもたらしたと考えられた。
(実施機関・部名) 神奈川県水産技術センター・企画資源部 連絡先046-882-2313

[背景・ねらい]

カタクチイワシ太平洋系群の資源量が減少傾向にあると推定される中、1 - 2月期の本県沿岸での漁獲量が2009年以降急増している。この時期のカタクチイワシは脂肪分が少なく、煮干し用加工に適しており、単価も本種にしては高い100円/kg以上で流通することもあり、定置網やまき網漁業者にとって貴重な収入源となっている。そこで、この急増要因について検証した。

[成果の内容・特徴]

- 1 2000年代半ば以降、他の漁期では軒並み減少傾向にある中、1 - 2月期だけは2009年以降、2013年を除き主要定置網での漁獲量が500トンを超え増加傾向であることがわかった。
- 2 急増要因の一つとして、北部太平洋大中小型まき網漁業が2006年以降カタクチイワシへの漁獲圧を激減させたことにより、沖合回遊群(産卵準備群)由来である大型成魚の来遊量がピ - ク期よりも相対的に増加し、漁獲増をもたらしたと考えられた。
- 3 もう一つの要因として、小型成魚の来遊量増加も考えられたが、沖合由来か沿岸由来かは今後精査する必要がある。

[成果の活用面・留意点]

- 1 当該漁期の漁況予測精度を上げることで、効率的な操業が実現でき漁業経営の安定に繋がると期待される。
- 2 太平洋系群全体の資源量は沖合回遊群の減少により引き続き減少傾向を辿ると思われる、今後は沿岸回遊群の動向が注目される。

[具体的データ]

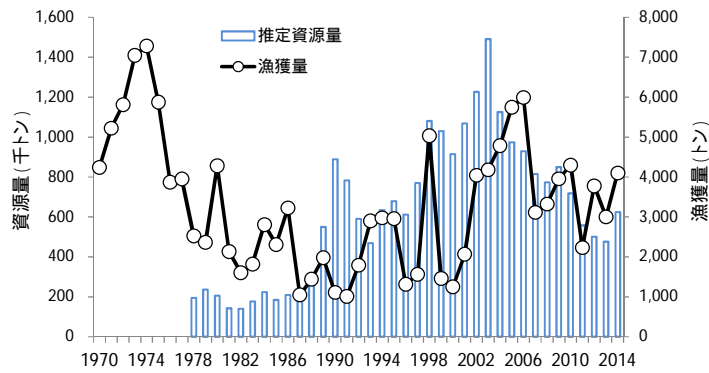


図1 カタクチイワシ太平洋系群の推定資源量と本県における漁獲量の推移

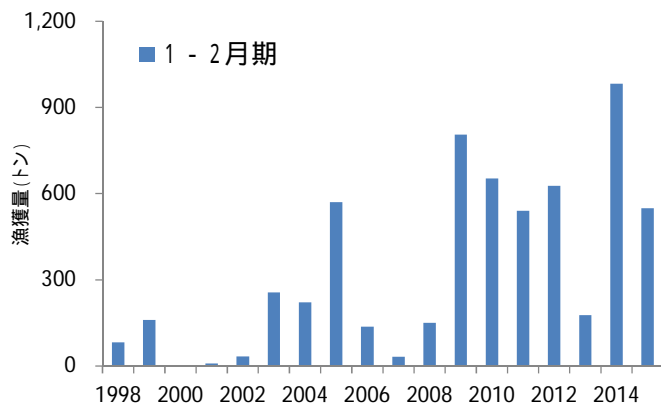


図2 主要定置網におけるカタクチイワシの1-2月期の漁獲量推移

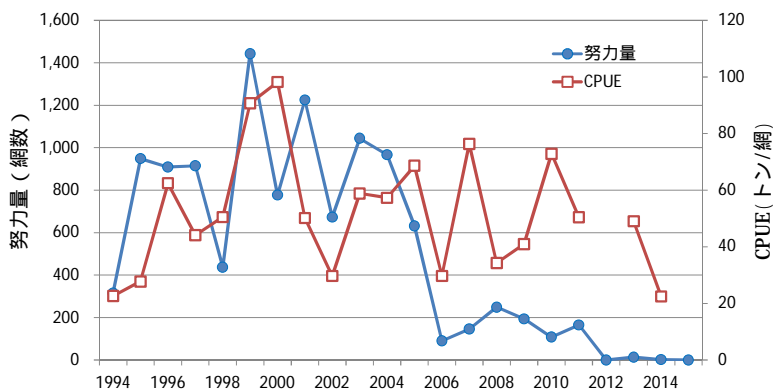


図3 北部太平洋大中型まき網漁業による前年12月～2月におけるカタクチイワシ太平洋系群の投網当たりの漁獲量(CPUE)と努力量(網数)

[資料名] 平成28年度神奈川県水産技術センター - 研究報告第8号
 [研究課題名] 本県沿岸域におけるイワシ類の資源研究
 [研究期間] 平成28年度～平成32年度
 [研究者担当名] 船木 修